

野田争議の原因及現状 (昭和三四月発行)	同	同	一〇	同
共産黨の分裂政策	山崎一雄譯	三〇	同	同
裝幀労働組合創立事情	三木治郎	一〇	同	同
東京鐵工組合大崎第六 支部規約集	同支部編	一〇	同	同
社會主義の政治	英國労働黨編 山崎一雄譯	三〇	同	同
民衆政治を目ざして	出版部編	二〇	同	同
産兒制限の話	安部磯雄	一〇	同	同

### 教育部

教育部は、本年度に於いて左の方針及方法に基いて活動した。

#### 一、労働學校

川口労働公民學校は、種々なる事情に依つて休止して居るが、日本労働學校及神奈川労働學校は従來通り開校し、相常良好なる成績を挙げた。學生出席率も平均前者に於いて三半名、後者に於いて四十名であつた。日本労働學校は七月より九月まで第一學期を、九月より第二學期を開講した。

#### 二、研究會

各加盟組合に於いて、夫々熱心に行つた。

#### 四、出版物による教育運動

して居る。  
神奈川労働學校は、四月より開講、七月十五日を以つて終了し、卒業式を行つた。卒業生婦人五名を加へて廿三名である。

#### 二、特別講座

日本労働學校は、各地に出張講座を開講する方針を定めたが、其第一回として、七月廿一日より廿七日(午後六三〇—九・〇)迄一週間、板橋明公會堂に於いて開講した。(會費五十錢)

- 近代思潮論 重廣 虎雄氏
- 労働組合論 徳永 正報氏
- 日本労働運動史 木村 盛氏
- 我國産業機構 西木 喬氏
- 現代經濟の動き 松下 芳男氏
- 政治問題 爲藤 五郎氏

聴講者平均百名で成功であつた。  
神奈川労働學校に於いても、一月十三日に労働階級に及ぼす金解禁の影響 石橋堪山氏の特別講座を開いた。

本同盟教育部は、特別講座を最も有意義なるものとして各労働學校と協力し、各地に積極開講する豫定である。

定期刊行物としては、日本民衆新聞(月二回)を以つて主として政治教育の機關たらしめ、雑誌「労働經濟」(月一回)に依つて、主として經濟智識の普及に努力して居る。

### 關係労働學校一覽

學 校	定 員	期 間	學 科 及 講 師	組 合
日本労働學校 東京芝區三田四國町二 校長 鈴木文治 主事 木村 盛	五〇	毎週三日 一ケ年	社會思想史 石川淳十郎 經濟學 松下 芳男 政治學 牧内 義雄 經濟史 山崎 一 社會運動史 藤田 立作 社會學 西本 高 労働組合論 齋藤 健一 時事問題 馬場 恒吾 労働法 松永 義雄 工場管理 小山 壽夫 労働運動史 赤松 克廣	東京聯合會
神奈川労働學校 川崎市新川通五九 校長 三木次郎 主事 土井直作	五〇	毎週三日 三ケ月	社會運動史 山崎 廣 労働組合論 馬場 恒吾 労働法 齋藤 健一 時事問題 木村 盛 文藝學 赤松 克廣 婦人問題概論 赤松 克廣	神奈川聯合會

(昭和五年一月現在)